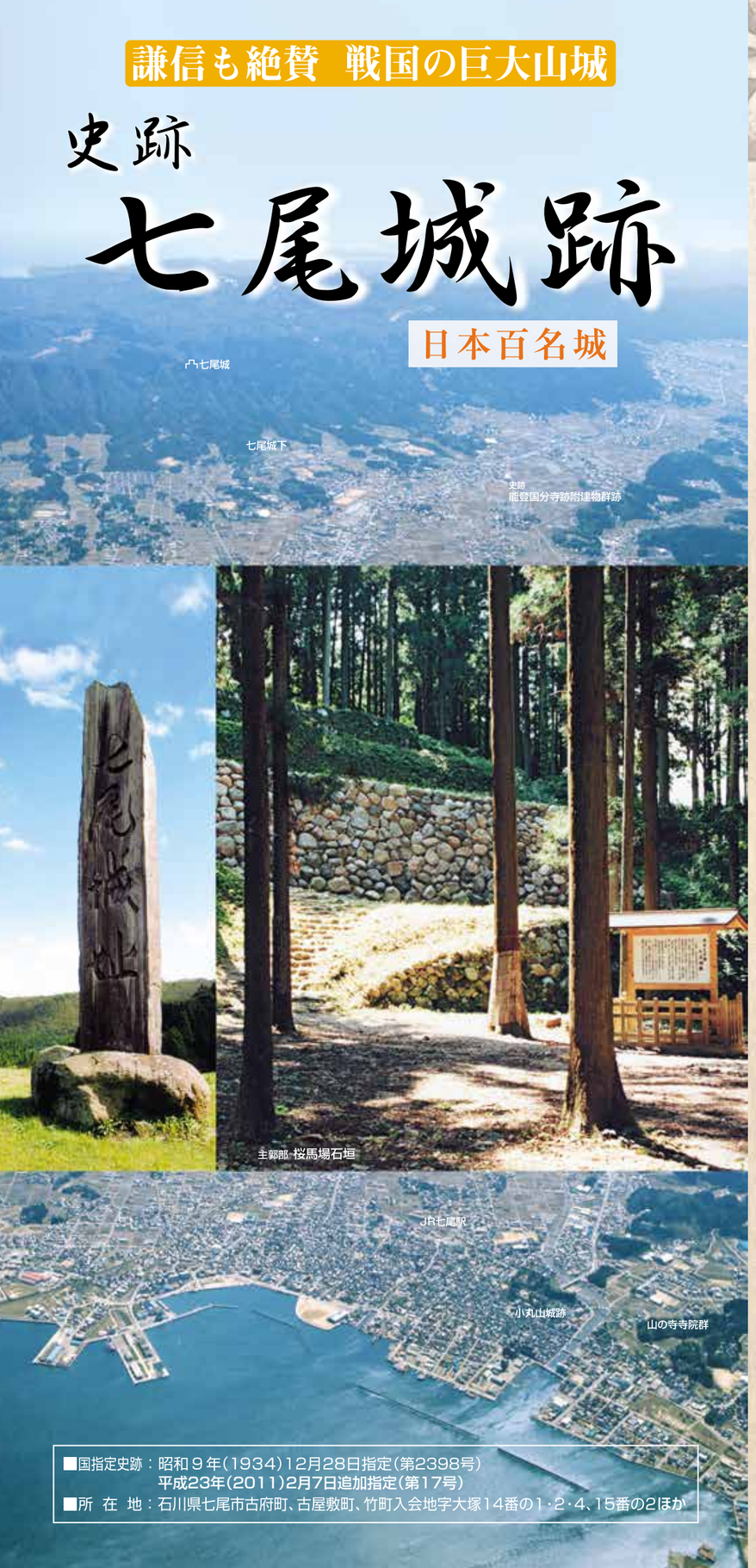
謙信も絶賛　戦国の巨大山城

史跡 七尾城跡

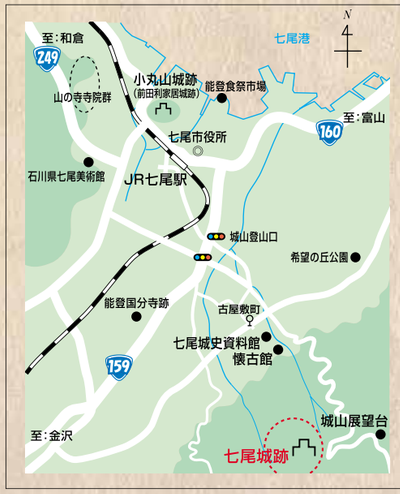
日本百名城



■国指定史跡：昭和９年(1934)12月28日指定(第2398号)
平成23年(2011)2月7日追加指定(第17号)
■所　在　地：石川県七尾市古府町、古屋敷町、竹町入会地字大塚14番の1・2・4、15番の2ほか

能登畠山氏と七尾城に関係する歴史略年表

年号（西暦）	主な出来事	歴代当主	拠点
建武３年（1336）	足利尊氏が征夷大将軍となり、室町幕府を開く。		府中 守護館
明徳２年（1391）	河内・越中守護畠山基国が能登守護をかねる。	基　国	
応永13年（1406）	畠山基国没し、その次男満慶が管領畠山家の家督を継ぐ。		
15年（1408）	畠山満慶、畠山家の家督を兄満家に譲り、改めて兄より能登をもらい、能登畠山家（畠山匠作家）を創設する。	初代 満慶	
永享４年（1432）	畠山満慶没し、その長男義忠が家督を継ぐ。	二代 義忠	
応仁元年（1467）	畠山義統、西軍方で応仁の乱に参戦する。	三代 義統	
文明10年（1478）	応仁の乱が終わり畠山義統、能登に下向する。		
15年（1483）	畠山義統、府中守護館で連歌会を催し「賦何船連歌」を詠む。		
延徳２年（1490）	畠山義元、能登に下向する。	四代 義元	七尾城（山城と城下）
明応６年（1497）	畠山義統没し、その長男義元が家督を継ぐ。		
９年（1500）	守護代遊佐統秀ら、義統の次男慶致を擁立し守護とする。	五代 慶致	
文亀３年（1503）	畠山慶致、父義統の七回忌法要を瑞応山大寧寺で行う。		
永正５年（1508）	畠山義元、越後国より戻り再び能登守護となる。	六代 義元	
12年（1515）	畠山義総、能登守護となる。	七代 義総	
大永３年（1522）	月村斎宗碩らにより「賦何路連歌」が詠まれる。		
５年（1525）	七尾城内の義総亭で「賦何人連歌」が詠まれる。		
天文８年（1539）	長谷川等伯、七尾に生まれる。		
13年（1544）	禅僧の彭叔守仙が七尾城と城下を記述した「独楽亭記」著す。		
14年（1545）	畠山義総没し、その次男義続が家督を継ぐ。	八代 義続	
19年（1550）	このころ能登の内乱により七尾城下が焼失する。		
	このころ「畠山七人衆」が領国支配の実権を握る。	九代 義綱	
永禄９年（1566）	畠山重臣が、畠山義綱を追放し、その長男義慶を擁立する。	十代 義慶	
天正元年（1573）	織田信長、足利義昭を追放し室町幕府を滅ぼす。		
２年（1574）	畠山義慶が重臣に毒殺され、その弟義隆が家督を継ぐ。	十一代 義隆	小丸山城（平山城と城下）
４年（1576）	越後の上杉謙信、能登へ侵攻し七尾城を囲む。		
５年（1577）	畠山重臣が上杉方に内応し、七尾城を陥落させる。能登畠山氏が滅亡する。		
５年（1577）	上杉方の鯵坂長実が七尾城代として入城する。	上 杉 氏	
９年（1581）	前田利家、織田信長より能登一国を与えられ七尾城に入城する。	前 田 氏	
10年（1582）	前田利家が所口の小丸山に新たな城を築く。		
11年（1583）	前田利家、金沢（尾山）へ移り、兄安勝が七尾城代となる。		
文禄２年（1593）	前田利家の次男利政が能登二一万石を豊臣秀吉より賜り、能登国大名となる。		
慶長５年（1600）	関ヶ原の戦い。前田利政が改易され、利政領は加賀藩領となる。		
８年（1603）	徳川家康、江戸幕府を開く。		
元和２年（1616）	前年の「一国一城令」により、七尾「小丸山」城が廃城となる。		



●交通案内
- **JR七尾駅～七尾城跡**（本丸北駐車場）まで車で約15分（約7km）
- **JR七尾駅～古屋敷町**まで まりん号（市内循環バス東回り）利用で（約15分）
- **七尾城史資料館～七尾城本丸跡**まで徒歩で約150分（往復）

●七尾城史資料館…☎0767-53-4215
●懐　　古　　館…☎0767-53-6674
ともに入館料200円（大高生160円）
休館日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）
冬期休館：12月11日～3月10日

発行：七尾市教育委員会文化課
（第５版）

〒926-8611
石川県七尾市袖ヶ江町イ部25番地
☎0767-53-8437/FAX.0767-52-5194
E-mail：bunka@city.nanao.lg.jp

七尾城と能登畠山氏のあらまし

能登畠山氏とは

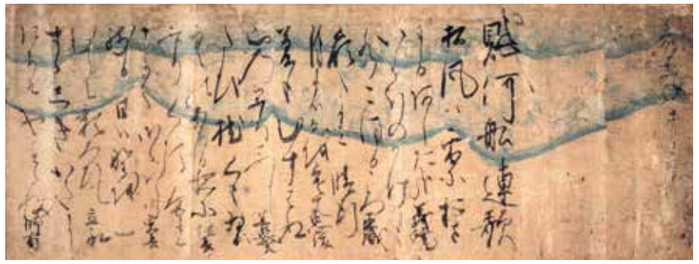
足利一門の有力家臣であった畠山基国が能登国守護職に任ぜられたのは、今からおよそ600年前の室町時代の初頭でした。基国は能登のほかに河内・越中・紀伊三ヶ国の守護職を兼務しており、また室町幕府の管領の地位にも就いた大物でした。

能登畠山氏は、基国の次男満慶が応永十五年(1408)に畠山氏が治めていた四分国のうちの能登一国を割いたことをはじまりとします。そして、満慶以後義隆まで十一代、七尾城が落城する天正五年(1577)までの169年間にわたり能登を治め、都(京)文化を礎としながら地域に根ざした独自の能登畠山文化を繰り広げました。

七代 義総画像　複製　七尾市蔵

能登畠山氏の文芸

三代義統や七代義総の時期、領国支配は安定し、多くの文化人が、都から七尾に訪れました。府中の義統邸や七尾城内の義総邸では、たびたび和歌や連歌の会が催され、多くの作品が詠まれました。義統が発句する「賦何船連歌」をはじめ、能登畠山氏の文芸活動がうかがわれる３巻の連歌集が今に残されています。



賦何船連歌　文明15年（1483）県指定文化財　七尾市蔵

上杉謙信七尾城本丸初登城の感想　天正五年(1577)九月二九日

「聞きしに及び候より名地、（加)賀・越（中)・能（登)の金目の地形と云い、要害山海相応し、海頬嶋々の躰までも、絵像に写し難き景勝までに候」

上杉謙信書状「歴代古案」第一より

七尾城跡中心部の縄張り

七尾城は、もっとも大規模な戦国期拠点城郭であるとともに、戦国期と織豊期のもっともすぐれた山城構造の全貌を知ることができる城跡だと評価できる。史跡としての価値はきわめて高い。さらに、七尾城は単なる立て籠もりの砦ではなく、日常的な政治活動や生活をし得た拠点城郭であり、多数の屋敷地が集結した壮大な城郭構造は、まさに「山上都市」として七尾城が機能したことを示している。

千田2002『七尾城跡保存管理計画書』より

城山展望台
（標高約380m）
百間馬場
W.C
七尾城跡
（標高約300m）
本丸
遊佐屋敷
西の丸
桜馬場
九尺石
長屋敷
調度丸
温井屋敷
本丸北駐車場
二の丸
W.C
石動山
やまびこ荘
湖畔公園コロサ
寺屋敷
樋の水
三の丸
袴腰
安寧寺
沓掛
番所跡
七曲り
時鐘跡
長坂
木落川
小田吉之丈顕彰碑
高屋敷
大谷川
総構え
懐古館
七尾城史資料館
城山
古屋敷町
（まりん号バス停）
城山総合運動公園
総社
南ヶ丘
159
能登国分寺展示館
能登国分寺公園
七尾東部中学校
藤野町
藤野町北
天神山小学校
七尾サンライフプラザ
矢田郷公民館
城山登山口
本宮神社

戦国巨大山城の道　散策コース

【徒歩で】

A.制覇コース ---------- （約150分）

七尾城史資料館→沓掛→寺屋敷→調度丸→本丸→二の丸→三の丸→安寧寺→七尾城史資料館

B.中心部コース ---------- （約50分）

本丸北駐車場→桜馬場→本丸→二の丸→三の丸→安寧寺→樋の水→寺屋敷→調度丸→本丸北駐車場

©Futaba-C/Manap 2012

七尾城中心部復元図（図：中西立太氏）

袴腰からの眺望（七尾市街）

九尺石（温井屋敷）

桜馬場に向かう階段と石垣

調度丸の石墨

七尾城中心部散策コース

本丸北駐車場 —約8分→ 本丸 —約10分→ 二の丸 —約8分→ 三の丸 —約20分→ 本丸北駐車場

所要時間：50分